

文化

bunka@ryukyushimpo.co.jp
TEL098-865-5162

沈黙に向き合う

沖縄戦聞き取り47年

(102)

石原 昌家

「無戦世界」の構築を！ 論文の「第一章 無戦論の」と、第1次世界大戦後の世系譜には、近代沖縄にお

界の惨状を目前にして、沖ける平和思想の潮流は「非縄の比屋根静観が、ハフ戦」「反戦」「無戦」の地で叫んだ。いま、ウという時系列な展開の構図クライナの惨憺たる映像を平和思想・反戦思想の最終譜」が、頭をよぎる。比屋根の到達地点だと明言して

根照夫琉球大学名誉教授が、いる。そして「ハフ戦」の現役時代、ハフに足し自衛隊の出兵、在沖縄米海兵隊のイラクへの軍事介入た論考の書を出してある。などの現実を眼前にしている。今、沖縄に「そ」無とめた「オキナワを平和学戦」思想の確立が緊急に求



比屋根静観牧師の無戦世界思想による詩集 (比屋根照夫琉球大学名誉教授提供)

無戦世界③

平和思想の到達点

比屋根氏が掘り起こす

2005年とは

2005年とは

余前に表明したものであつたというところだ。世界人主義「コスモポリタニズム」の思想の「世界人主義」そのような平和主義に近づき、非武装、無戦主義の表明である(同書151-31頁)。「無戦世界」を連想するところになった。そこで、05年には異次元の平和活動をおこなっている人たちが存在していたことにまったく無知だったことが分かり、反省している。記事の内容を記したところである。運動体を組織 私は、比屋根静観牧師の無戦世界の思想については比屋根論文ではじめて知り、その年に編者としてそれを出版したとき、まさにその思想を具体的に展開しようとした動きが新聞で報じられていたのだ。それをまったく知らなかったというところが、思いもよらないところに、大学時代に私の受講生だった大城尚子沖縄国際大学非常勤講師が、1996年12月21日、沖縄で世界連邦政府樹立の運動体が組織されたことを報じている琉球新報紙を知らせてくれた。その紙面をみるやわが目をうたがった。私は、戦後間もない時期からの新聞紙面を全部めぐってきいているので、その記事は素通りしてきたようだが、まさにそのとき、私は小学6年生ながら沖縄タイムスと沖縄朝日新聞の夕刊売り少年(2004年4月28日付琉球新報「清らしませらちむ」第73回に掲載)として、国際通り、平和通り、桜坂一帯を見出しが目に付くようにして、新聞を道行く人に売り歩いていた。その紙面も当然目にしてははずだ。沖縄戦の惨憺から8年目の沖縄で、世界連邦政府樹立の運動が展開しようとしていたのだ。それを新聞記事で知ったものとして、沖縄の先人たちが手がけたその平和運動を将来世代に伝えたい。それは以下の現状は、沖縄の命どうぞ、無戦世界を共鳴しあっている。さらに本紙でウクライナの「非人道的な大惨事」「さまざまな軍拡は人類の『破滅への道』」(豊下植彦氏)と識者が警告を発するに至っている状況は、世界連邦政府への注力を促しているところとてめだ。 (次回は27日掲載)

命あつてこそ

(次回は27日掲載)